

# 教科書について

「楽しく学べて、コミュニケーション力が付く教科書」を求めて

考えてみませんか？

皆さんはこれまで、どんな教科書に出会い、  
どんな「付き合い方」をしてきましたか。

長年、既存の教科書について疑問を持ちながら考え、  
試行錯誤を重ねた現場の教師たちから『できる日本語』という  
新しい教科書が生まれました。その壮大な作業の過程で  
教師が学んだこと、考えたことを、皆さんと  
共有していきたいと思えます。

第5回

## 漢字学習も「できること」重視！

### 漢字を知らないと困るのはどんな時？

「できること」重視の教科書は、まず課の行動目標(何ができるようになるか)があり、その場面・状況で必然性のある文型を学ぶ、という仕組みになっています。今回は、その「できること」重視の教科書を使った授業で、漢字学習をどう進めればよいか、をお話ししましょう。

例えば『できる日本語』2課「買い物・食事」の行動目標は、「お店の人や友達と簡単なやりとりをして、買い物をしたり料理の注文をしたりすることができる」です。3つある「スマールトピック」のうち、「レストラン」での練習は、このような感じです。



次のような例が出て、下線の部分は、「鶏肉、牛肉、野菜……」と入れ替えて練習をします。

A: すみません。これは何の料理ですか。

店員: それは豚肉の料理です。

A: ぶたにく? 「ぶたにく」は英語で何ですか。

店員: 「pork」です。

A: そうですか。

ここで、日本語の学習を始めたばかりの2課で「牛肉、豚肉、鶏肉」の漢字を教えると言ったら、驚かれるでしょうか。

「できること」重視の教科書は、接触場面(外国語話者と、一般に母語話者と呼ばれる話者とのコミュニケーション場面)を大切にしていますが、それは漢字学習においても同様です。そこで、「知っていることで生活が便利になる漢字」をまずは学んでほしい、と考えるわけです。学習者が漢字がわからないために、迷ったり、間違ったりする場面を、避けたいと思うのです。

「豚肉」という漢字は、イスラム教徒の学習者にとっては、どうしても知っておく必要があります。他の学習者にとっても肉の種類はわかったほうが便利です。だから、画数が少なく、生活でよく使う「米、卵、茶」といった漢字を差し置いてでも、学んでほしいと考えます。

### 漢字を3つに分けて学ぼう！

ここで、「漢字を学ぶ」ということを考え直してみましょう。漢字学習は、

**授** 業が終わった昼下がり、漢字談義で教員室はにぎやかです。

「えっ？ 何で2課で『酒』を教えるんですか」とは、駆け出しのA先生。初級2課「買い物・食事」で漢字の「酒」を教えると聞いて、びっくりしています。そこで登場したのは大ベテランのB先生。「いやあ、以前、学生が赤い顔をして午後のクラスに来たことがあってね。『酒』がわからなくて、ジュースと間違っ、カクテル飲んじゃって……。『酒』のサイン、知っていればねえ」。それを聞いた教師歴20年というC先生も、思い出話を始めました。「以前、バングラデシュの学生さんが5人、『ぶた、ありますか』って、山のようなパンを持って聞きに来たのよ。宗教上、豚を食べてはいけないからね。材料の表示を見たら、『豚脂』って、けっこうパンに入っているのよね。『豚』って漢字、教えておけばよかったって反省」

1. 易しいものから出していく
2. 教科書に出たものを拾っていく
3. 「読み」と「書き」を両方同時に学ぶなどと言われますが、本当にそれでいいのでしょうか。

まず「易しい漢字」といっても、学習者によって「難しい漢字／易しい漢字」の捉え方はかなり違います。

「教科書に出たものを拾う」場合、学習漢字の数や必要性の問題などが出てきます。

さらに、「できること」重視という観点からは、その漢字が「読めて書ける」必要があるかどうかは、場面によって違ってきます。そこで、「読み」と「書き」を分けて考えることが必要になってくるのです。

ここで、私たちが実施している「漢字の3分類法」をご紹介します。私たちは、下のA～Cのような、3種類に分けて考えています。

- A 読み方と書き方を学習する漢字
- B 意味と読み方がわかればよい漢字
- C サインとして認識できればよい漢字

3分類法において、初級2課では、「豚肉」はBの漢字になります。この段階では、読み方と意味が結び付いていれば十分なのです。

さらに、教科書には出てこなくても、この段階で私たちが教えたいと考えている漢字に、「引」があります。スーパーやチラシでよく目にする「30%引」といった言葉は、学習者にとって大切な生活情報だからです。

このように、教師が「その漢字は、どんな場面で、何ができることが求められるのか」という発想を持つことで、漢字の授業は生き生きしたものになります。皆さんも、「できること」重視の考え方で、「できること」を大切にした漢字学習を進めてみませんか。



**嶋田和子**

イーストウエスト日本語学校副校長。  
外資系銀行勤務の後、専業主婦を経て日本語教師。  
現在は、日本語教育業界を牽引するベテランの一人として、学習者への日本語教育はもちろん、教師養成にも当たる。  
著書に『目指せ、日本語教師力アップ！——OPIでいきいき授業』（ひつじ書房）、『キムチと味噌汁—韓日、異文化交流のススメ』（教育評論社）、『フワイワイガヤガヤ 教師の目、留学生の声——異文化交流の現場から』（教育評論社）など、多数。  
『できる日本語』（アルク）監修

- 連載 | 第1回 教科書を考えるって面白い！
- ライ | 第2回 どんな教科書と付き合ってますか？
- ン | 第3回 タスク先行型授業にチャレンジ！
- ナ | 第4回 「わかる」から「できる」へ
- ッ | 第6回 「プロフィেশンシー」で、教師力アップ！ 1
- プ | 第7回 「プロフィেশンシー」で、教師力アップ！ 2
- | 第8回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 1
- | 第9回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 2
- | 第10回 自律的な学びを支えるモノ
- | 第11回 「学習者が話したくなる」教科書とは？
- | 第12回 対話で新たな日本語教師人生を！